

世界遺産登録に向けて気運高める

JOMON 亀ヶ岡文化フォーラム2013



参加者が縄文文化への理解を深めたフォーラム



講演を熱心に聞き入る参加者



あいさつを述べる
野呂理事長

つがる市の史跡・亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚を含む「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界文化遺産登録への気運を高めようと、「JOMON 亀ヶ岡文化フォーラム」が3月23日、松の館で開催され、約150人の市民らが参加しました。

はじめに主催者である「つがる縄文の会」の野呂隆昌理事長が「2年後の世界遺産登録に向けて皆様の力添えをお願いします」とあいさつ。五所川原市教育委員会の榊原滋高主幹、市教育委員会の佐野忠史学芸員による昨年の調査報告の後、日本歯科大学の奈良貴史准教授が「人骨が語る縄文時代」と題して講演し、参加者は縄文遺跡へ理解と関心を深めました。

人骨を分析することで、その人の系統、生活様式、病歴、社会背景などさまざまな情報がわかります。

田小屋野貝塚で発掘された人骨は、骨盤に妊娠痕があったことから女性だと思われる。



「人骨が語る縄文時代」
日本歯科大学新潟生命歯学部
奈良 貴史 准教授



つがる市の歴史資料館 縄文の歴史探訪

定期観光バスツアーのコースにも含まれています。
詳しくは裏表紙をご覧ください。

縄文住居展示資料館「カルコ」

開館時間 9:00～16:00

休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始

住所 つがる市木造若緑59-1

電話 42-6490



木造亀ヶ岡考古資料室（縄文館内）

開館時間 9:00～16:00

休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始

住所 つがる市木造館岡屏風山195

電話 45-3450



森田歴史民俗資料館

開館時間 9:00～16:00

休館日 月・火・木・金曜日、年末年始

住所 つがる市森田町森田月見野340-2

電話 26-2201



観覧料（3館いずれも）

大人200円、高校・大学100円

小中学生50円(各団体割引有り)

田小屋野貝塚は亀ヶ岡遺跡から北へ約200メートルに位置し、縄文時代前期から中期の円筒土器文化期（約5500～4500年



「史跡田小屋野貝塚の
構造と縄文人骨」
つがる市教育委員会
佐野 忠史 学芸員

前）を中心とした遺跡です。日本海側では数少ない貝塚を有する貴重な集落遺跡で、これまでの発掘調査で、^{たてあな}竪穴住居、^{どろうぼ}土杭墓、貝層が発見されました。また、円筒土器、ベンケイガイ製の貝輪、黒曜石、クジラの骨で作った骨角器など多数出土しています。

昨年8月には竪穴住居跡から人骨が発掘され、見つかった人骨は、周辺のヤマトシジミの貝層や土器の状況から縄文時代前期のものとなりました。

これまでの調査を通して、田小屋野貝塚には、貝層や



ベンケイガイ製貝輪と石製装飾品（右下）



人骨の発掘作業（平成24年8月29日）

遺構が良好な状態で残っていることが確認され、同貝塚は、縄文時代前期の環境や生業、生産活動、交易を知るうえで重要な遺跡である。

ると同時に、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」を説明するためには欠かせない遺跡だと言えます。

縄文人は皮革等をなめすのに奥歯を道具として使っていたようですが、この女性は奥歯が非常にすり減っているのに対し、（成人前後に生える）「親知らず」はすり減っていません。なかつたことから、20歳代位の可能性があります。

また、大腿骨の断面が後方に張り出していることから、膝の曲げ伸ばしにより筋肉が発達していたことがわかります。つまり、野山を駆け回った生活をしていたことが推測できます。

今後さらに研究を重ね、詳しい状況がわかればまた報告したいと思います。